

(6) ナマズ (ナマズ目ナマズ科)

① 分布

最上流域を除く集落

② 主に見られた場所

川, 水路, 池, 水田

③ 採録した呼び名

- ・ 標準和名 ナマズ (全集落)
- ・ 稚魚 コボ, チャンチャンボー, チンタ, チンチン, テンテコ, デンボコ, ナマコ, ナマズコ, ナマズゴ
- ・ 大型魚 オオナマズ
- ・ 黒斑点 ゴマナマズ
- ・ 大きさ・成長年数 ショネンコ, イチネンコ, ニネン, ニネンコ, ニネンゴ, サンネン, サンネンコ, サンネンゴ, ヨネンコ, ヨネンゴ, ゴネンコ, ゴネンゴ



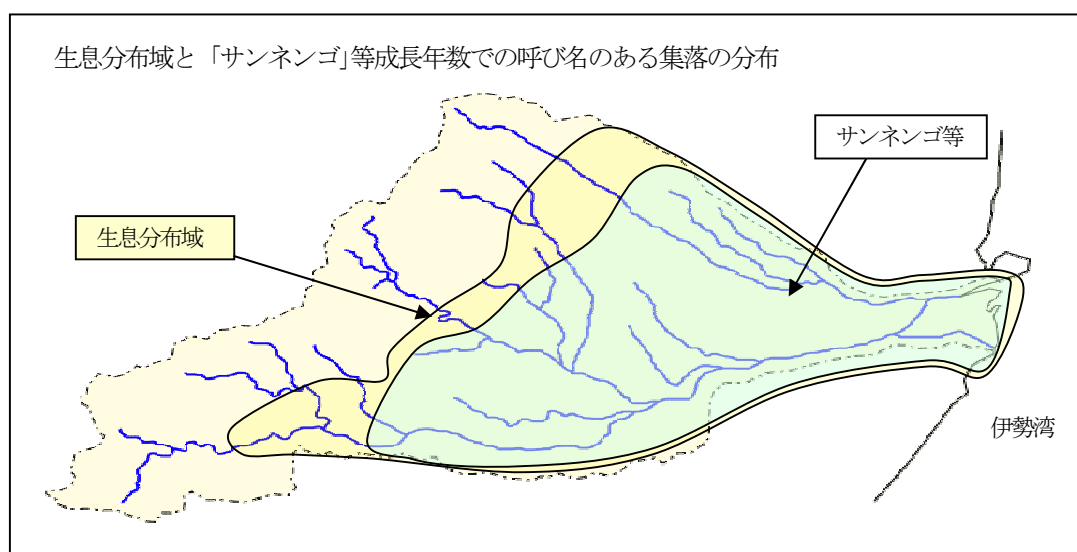
④ 分布と呼び名について

中下流域を中心に, 川, 水路, 池でよく見られ, 梅雨時期には水田でも大型魚や稚魚が見られたという。一方, 上流域になるに従い生息情報は少なくなる傾向にあった。

呼び名としては, 標準和名である「ナマズ」をはじめ, 稚魚名, 成長年数別のものなど計24種を採録した。

生息の有無に関わらず標準和名である「ナマズ」を全集落から採録したほか, ほぼ中下流域全域で年々大きくなる大型魚であることから, 「ニネンコ」, 「サンネンゴ」, 大きいものでは「ゴネンコ」など, 大きさごとに成長年数で区別する呼び名が見られた。

また稚魚名としては, ナマズの子であることを示す「ナマズコ」や「デンボコ」, 「テンテコ」など, 生息数が多い中下流域でより多様な呼び名が見られた。



⑤ その他

ウナギとともに地域住民の関心の高かった魚であり, かつて中流域の池では1 mにもなる大型のナマズが見られたという。

近年は, 本支流での河川整備や農地整備に伴う用排水分離, 水路のコンクリート化などにより, 水田という一時的水域での繁殖環境がほとんど失われるなど, 本種にとっての生息・繁殖環境が悪化したため, 生息数が減少し, 身近な魚種ではなくなった。

なお, 聴き取りにおいて, 乳飲み子を持つ女性によく母乳がでるようにと本種を食べさせたという話をいくつかの集落で採録した。

(6) -2 アカザ (ナマズ目アカザ科)

① 分布

最上流域と最下流域を除く集落

② 主に見られた場所

川, 水路

③ 採録した呼び名

- ・ 体色 (赤) アカギンタ, アカザシ, アカゾ, アカダ, アカッチョ, アカド, アカナマ, アカナマズ, アカンド, キイロ, キンナマズ
- ・ 捕獲時に刺す サシ, サシナマズ, サスナマズ, デンキナマズ, ハリナマズ
- ・ 捕獲時に発する音 ギギ, ギミ, ギミンチョ, ギュウ, ギュウギュウ, ギン, ギンタ, ギンチョ, ギンナマ, ギンナマズ, ギンナン, ゲゲ, ゲゲツ
- ・ 生息場所 ガマ, カワラナマズ
- ・ その他 イシャダ, ドンギュウ



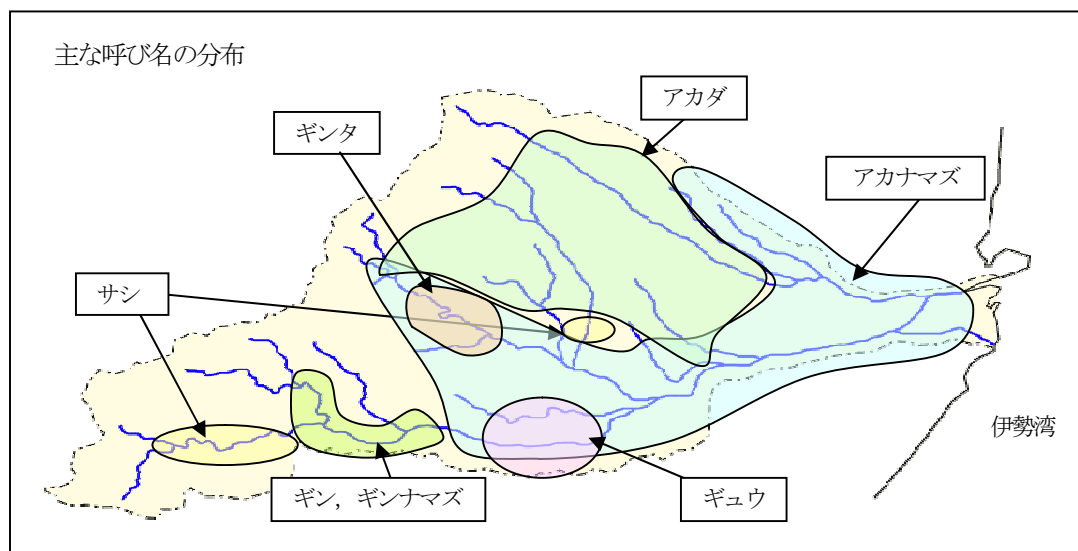
④ 分布と呼び名について

上中流域を中心として, 下流域にかけての川や水路でよく見られたという。

呼び名としては, ナマズに似た姿と赤い体色からの「アカナマズ」をはじめ, 鰭で刺すこと, 捕獲時に発する音からのものなど計 33 種を採録した。

鈴鹿川中下流, 安楽川流域, 及び内部川中下流といった広い地域において「アカナマズ」を採録したほか, 旧亀山町を中心とした地域においては「ギュウ」, 亀山市神辺地区から関町坂下地区にかけては「ギン」, 「ギンナマズ」, 関町加太地区及び鈴鹿市東庄内地区においては「サシ」, 亀山市辺法寺周辺地域では「ギンタ」, また御幣川上中流域及び内部川上中流域においては「アカダ」などと呼ばれた。

なお, 下流域では, 生息数は少なかったようで, 固有の呼び名は一部の地区を除き採録されなかった。



⑤ その他

刺すことから嫌われもので, 取る対象ではなかったという。

(6) -3 ネコギギ (ナマズ目ギギ科)

① 分布

井田川地区より上流域の鈴鹿川, 加太川, 安楽川・御幣川, 椎山川沿いの集落など

② 主に見られた場所

川, 水路

③ 採録した呼び名

- ・ 他種と分けした呼び名 (集落単位)

ギギン, ギン, ギンギン, ギン
ナマズ, クロギンタ, クロナマ
ズ, ナマズ

- ・ アカザとの混称等 (集落単位) アカダ, イシャダ, ギミ, ギミンチョ, ギュウ, ギュウギ
ュウ, ギン, ギンタ, ギンチョ, ギンナマ, ギンナマズ, サシ, チンチン

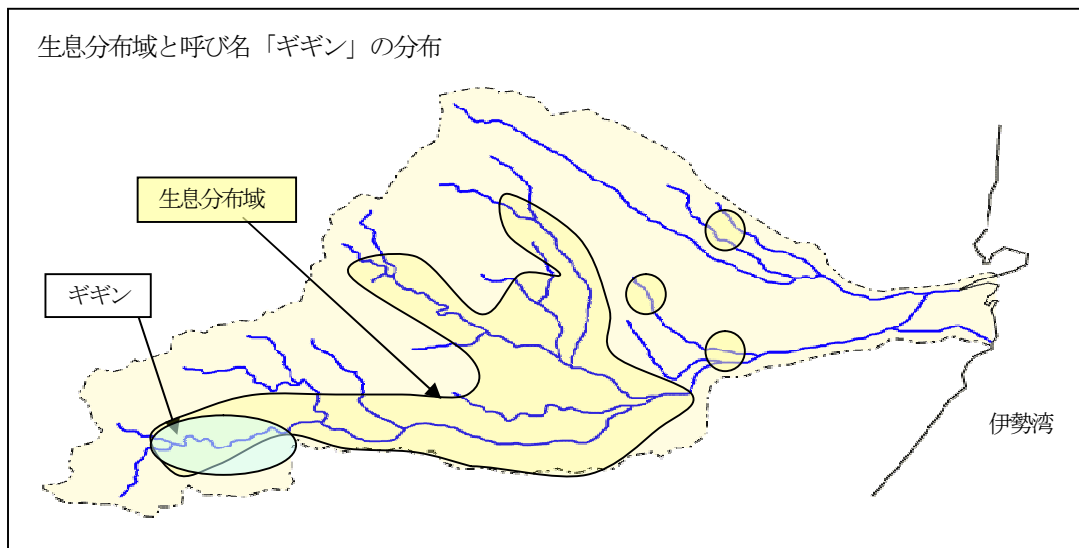


(志摩マリンランド撮影)

④ 分布と呼び名について

上流域から中流域の本川において見られたという。とりわけ, 安楽川との合流地点より上流域の鈴鹿川, 加太川, 安楽川・御幣川, 椋川においては, 沿川の多くの集落で生息情報を採録したほか, 下流域で合流する椎山川, 内部川水系の鎌谷川や足見川においても見られたという。

呼び名としては, 固有名として「ギギン」をはじめ, アカザとの混称など計18種を採録した。本種が多数見られた地域を中心に, アカザやナマズと分けした固有名が見られ, 関町加太地区では「ギギン」及び「ギンギン」を採録したほか, 鈴鹿市八野町では「ギン」, 関町東新田では「ギンナマズ」, 亀山市両尾町では「クロギンタ」と呼ばれた。一方, ナマズがいない地域においては, 本種を「ナマズ」と呼んだ集落も見られたほか, 本種の生息数が少なかった地域では, アカザと混称, 又は呼び名が特にならない傾向にあった。こうした本種についての情報は, 別途「ネコギギ調査票」としてまとめた(→ 6(3)ネコギギ調査票)。



⑤ その他

調査においては, 写真だけでは生息情報が得られにくい傾向があったため, 「アカザ (実際には集落での呼び名を使用) によく似た魚で, 色が黒, 黄色, 又は混ざったもの」或いは「アカザでもない小型のナマズ系の魚」と補足説明を行いつつ聞き取りを行った。

本種はアカザと似ていることに加え同じような所で捕獲されることから, アカザと同様に手で持てば刺すというイメージが強い一方, 少し丸みを帯びた体型, おとなしいが刺されるとアカザより痛みが強い等とアカザと区別して捉えていた集落もいくつか見られた。

なお, 本種は天然記念物とされ, 現在, 鈴鹿川水系では安楽川にのみ生息が確認されている。